

第14回医用生体電磁気学シンポジウム ビジネスミーティング

日本学術会議 電気電子工学委員会

URSI 分科会 医用生体電磁気学小委員会 (K 小委員会)

第25期 第3回

議事録

日時：2022年4月20日(水)、10:00-11:00

場所：ハイブリッド開催(現地会場および遠隔会議)

現地会場：東京大学本郷キャンパス工学部2号館3階 電気系会議室1A(東京都文京区本郷7-3-1)

遠隔会議：ZOOM(主催者：東京大学大学院工学系研究科バイオエンジニアリング専攻関野研究室)

出席者：

第25期URSI-K国内小委員会委員：

現地会場：渡辺聡一(NICT:委員長、研究会会長)、中園聡(電中研:副委員長、研究会副会長)、齊藤一幸(千葉大:幹事)、関野正樹(東大:幹事)、長岡智明(NICT:副幹事)、吉江幸子(鉄道総研:副幹事)、幾代美和(NICT:幹事補佐)、齋藤淳史(電中研:幹事補佐)、池畑政輝(鉄道総研)、牛山明(科学院)、佐々木謙介(NICT)、重光司(元電磁界情報センター)、清水久恵(北科大)、多氣昌生(都立大)、田畑仁(東大)、Web:河野隆二(横国大)、伊藤公一(千葉大)、王建青(名工大)、上野照剛(東大)、上村佳嗣(宇都宮大)、神保泰彦(東大)、平田晃正(名工大)、東山潤司(NTTドコモ)、藤原修(名工大)、増田宏(久留米大)、松井康人(京都大)、松木英敏(東北大)、山崎健一(電中研)、山口さち子(安衛研)

医用生体電磁気学研究会会員：

現地会場：日景隆(北大:研究会幹事)、宮城浩明(HMリサーチ&コンサルティング)
Web:大西輝夫(NICT)

議題：

1. URSI-K国内委員会第25期第2回委員会(2021年11月12日)議事録確認
2. 日本学術会議URSI分科会の報告
3. 国際URSI-Kの状況報告
4. URSI GASS 2023, AT-AP-RASC 2022, JRSMの状況報告
5. BioEM 2022の準備状況ほか
6. 関連学会・会合に関する報告
7. その他

配布資料：

25-3-1：第 25 期_第 2 回_議事録(案)

25-3-2：日本学術会議 URSI 分科会の報告

25-3-3：国際 URSI Commission_ K の状況報告

25-3-4：BioEM2022 進捗報告

25-3-5：211207_生活環境における携帯電話基地局等の電波強度を明らかに

25-3-6：総務省報道資料 令和 4 年度から実施する生体電磁環境研究及び電波の安全性に関する評価技術研究に係る提案の公募

議事内容：

渡辺委員長より、開催の挨拶がなされた。前年度はコロナもあって完全オンラインだったが、今回ハイブリッド開催とした。関野幹事には会場設営を含め感謝したい。午後に医用生体電磁気学シンポジウムも予定しているので、ご参加いただきたい。

■ 議題 1：URSI-K 国内委員会第 25 期第 2 回委員会（2021 年 11 月 12 日）議事録確認
（資料 25-3-1）

・齊藤幹事より、URSI-K 国内委員会第 25 期第 2 回委員会の議事録について確認がなされた。

→異議なく承認された。

■ 議題 2：日本学術会議 URSI 分科会の報告（資料 25-3-2）

渡辺委員長より、URSI 分科会に関する報告がなされた。

・学術会議事務局担当者について、異動により、稲元様に変更となった。

・次回の URSI 分科会は、5 月 17 日に予定されており、議事次第が届いている。URSI National Report については、総会に合わせて国内の活動として論文リストをとりまとめ、Web 公開しているが、今回も作成する方向になれば、ご協力をお願いしたい。その他、AT-AP-RASC、第 35 回 URSI 総会（札幌）計画、URSI 日本生誕 100 周年記念シンポジウム、URSI-JRSM2022（2022 年 9 月 1～2 日、中央大学 後樂園キャンパス）、小委員会の活動等の議題が予定されている。

■ 議題 3：国際 URSI-K の状況報告

伊藤委員より、資料 25-3-3 に基づき、説明がなされた。

・URSI-K の活動について、ホームページで公開しており、Technical Advisory Committee (TAC) member および News & Updates の 2 つは URSI-K のみである。Terms of References については、総会の時の Council meeting で承認される必要があるが、TAC にて議論してい

る。News & Update については、BioEM2022 のテクニカルサポートの承認について記載している。

・URSI 役員について、次回 URSI 総会にて Vice-chair と ECR の選挙が行われる。これに伴い、伊藤委員 (Chair) と佐々木委員 (ECR) は任期が終了する。

渡辺委員長より、URSI 役員選挙について、次回総会で日本人 2 名が退任することになるが、日本もしくはアジアから参画することなど、何か議論はあるか、との質問がなされた。

→伊藤委員より、現時点でそこまで議論していないが、個人的には、日本から引き続きは難しいため、アジアという意味で誰か候補がいるとよいと考える旨、回答がなされた。

→渡辺委員長より、アジアから参加している TAC メンバーについて質問がなされた。

→伊藤委員より、日本以外では、中国から Tongning Wu 先生が参加しているとの回答がなされた。

渡辺委員長より、Terms of References について、医療応用に関するものが 1 つしかないかどうかという質問がなされた。

→伊藤委員より、6 項目は数が多く、もう少し減らして大括りにしたらどうかという意見がある。また、医療応用は、治療、診断、リハビリ等があるが、追加したらどうかという意見もある。今後議論したいので、何かあればご意見お願いしたい、との回答がなされた。

■ 議題 4 : URSI GASS 2023, AT-AP-RASC 2022, JRSM の状況報告

佐々木委員より資料 25-3-3 に基づき説明がなされた。

・AT-AP-RASC (2022 年 5 月 30 日~6 月 4 日、カナリア諸島) については、日本から convener として 3 名がプログラム編成に貢献した。投稿状況について、62 件採択され、前回よりは大幅な投稿数の増加である。また、ポスターセッションは中止となった。Public lecture は参加無料なので、興味があれば参加してほしい。General lecture については、伊藤委員が講演する。

・他の会議として、URSI GASS 2023 (札幌) が予定されており、AT-RASC 2024、AP-RASC 2025 (シドニー) については未定である。

・URSI100 周年記念の文献がホームページで無料公開されている。

・URSI-JRSM2022 について、開催形式は決まっていない。各分科会から 10~20 件を想定している。

伊藤委員より、AT-AP-RASC 2022 の Invited talk について、Barnes 先生は現在の URSI 会長の強い推薦があつて、お願いした経緯があるとの補足がなされた。

渡辺委員長より、前回総会ではハイブリッド会議形式であり、ポスターセッションがあつた

が、今回の AT-AP-RASC 2022 にてポスターが中止になった理由について前回総会で何か問題が指摘されたのかとの質問がなされた。

→佐々木委員より、コーディネートコミッティの中では、むしろ好意的な意見が多かった印象である。おそらく AT-AP-RASC 2022 では、現地組織委員会がないため、運営上の都合と推測されるとの回答がなされた。

■ 議題 5 : BioEM 2022 の準備状況ほか

王委員より資料 25-3-4 に基づき説明がなされた。

- ・ BioEM 2022 は、6 月 19～24 日に名古屋で開催予定。
- ・ 会議形式はハイブリッドに正式に決定した。
- ・ すでに論文の締め切りは終わっており、ホームページでアナウンスしているが、アブストラクトの受理連絡がなされている。
- ・ プログラムはすでに出ており、プレナリー 4 件、口頭発表 80 件、ポスター発表 140 件、等を予定している。
- ・ 財務状況については、ローンが 150 万円程度、助成金が 800 万円程度であり、参加登録 250 名を期待している。最終的には赤字にはならないだろうと考えている。
- ・ 現在は、日本に入国するすべての外国人において、ビザが必要であり、事務局が案内している。一部の国については入国が厳しい国もある。

■ 議題 6 : 関連学会・会合に関する報告

- ・ 日景幹事より、電子情報通信学会環境電磁工学研究会 (EMCJ) について説明がなされた。6 月に北海道大学で開催予定であり、プログラムが公開されている。野島俊雄先生 (北大) による特別講演を予定している。7 月の研究会は受付中である。基本現地開催であり、オプション的にハイブリッドを予定している。

■ 議題 7 : そのほか

渡辺委員長より資料 25-3-5, 6 について説明がなされた。

- ・ 資料 25-3-5 : NICT における大規模な生活環境における携帯電話基地局等の電波強度測定結果に関するプレスリリース (2021 年 12 月) である。大規模に測定し、リスクコミュニケーションで活用するための測定である。500 か所の測定結果および 10 年前に同じ場所で計測したものとの比較であるため、興味ある方はご覧いただきたい。
- ・ 資料 25-3-6 : 総務省で令和 4 年度から実施する生体電磁環境研究及び電波の安全性に関する評価技術研究に係る提案の公募が行われている。期限は 4 月 25 日まで。

河野委員より、IEEE の国際標準化、特に医療応用 (IEEE802.15.6) について、現在更新中であることが報告された。ブレインマシンインターフェース関係で、NICT の CiNet や大阪大

学と検討している脳へのインプラントに関する電波モデルや EMC、EMI の干渉モデルを標準モデルに採用したいと考えており、渡辺委員長にも標準化会議の際にご協力いただければと考えているとの説明がなされた。

→渡辺委員長より、会議への参加等については別途ご相談したい。一方で本件は通信分野と URSI-K の分野の連携、例えば URSI 総会の連携セッションの内容としてもよいと考えるので、ご相談させていただきたいとの回答がなされた。

→河野委員より、連携セッション等についてご協力させていただきたいとの回答がなされた。

以上